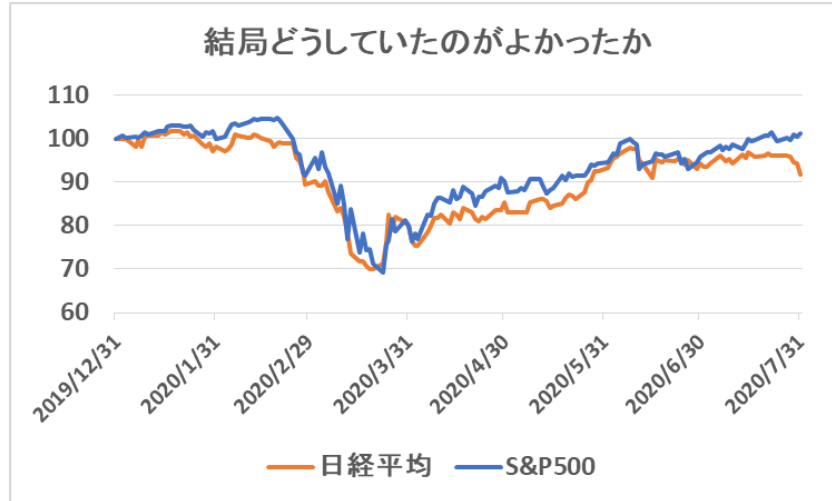


ATTENTION

大荒れ相場にどう向き合うべきか



このグラフはなかなか興味深いものがあります。昨年末から7月末までの日経平均と米国の代表的な株価指数S&P500の推移です。2月前半までは堅調に推移していたのですが、コロナ感染拡大を嫌気して、突然狂ったように下げ始めました。3月後半には昨年末より30%以上も下げ、まさにパニックとなりました。しかしながら、その後急速に戻し、7月終わってみれば、S&P500指数は、年末比で+1.2%と、上がっています！日経平均は8%程度の下げにとどまっています。何のことはない、何もしないでじっとしているか、お金があれば20%、30%も安くなったところを買えばよかったのです。このように急落した時に、怖くなって売ってしまうのが、最もやってはいけないことです。そのあとどんどん上がっていくのを見ているのはつらいものがあります。証券会社は、お客様の不安に乗じて銘柄の入れ替えを勧めたり、持っている株を売らせて投資信託や債券を買わせたりします。このような手数料稼ぎに絶対に乗ってはいけません。私どものお客様は、売ることは一切なく、じっとしているか、お金があれば安くなったところを買うかのどちらかでした。10年、20年の資産運用で、数か月の株価の動きは関係ありません。いつも、長い目で臨んでいることが大事です。

COLUMN

日産は抗争に明け暮れ、危機的局面に

「他に選択肢はありません！」こういって、日産リバイバルプランを1999年に発表したのは、かのカルロス・ゴーン。この頃、日産は銀座に本社があったように、殿様文化がはびこり、市場シェアはどんどん落ち、経営危機に陥ったのです。最後に手を差し伸べたのが、フランスのルノー。「あまり縁のない会社だなー、よほど困ったのだろう。」と感じたものです。ルノーから43.4%もの資本を受け入れ、やっと一息付けたのです。そこからゴーンの大手術が始まり、再建につながったのです。ゴーンは日本中から救世主のように受け止められました。

そして日産は曲がりなりにも一人前の自動車メーカーになったのですが、ルノーによる経営統合の話が出てくると、雲行きが怪しくなります。なんとしても経営統合を避けたい日産の日本人経営陣は、外資支配を嫌う経済産業省と話し、ゴーン逮捕のシナリオを作ったと推察されます。いわば社内クーデター。一人前になったのは、自分たちの力とばかりに、ゴーンを追い払ったのです。

そして、ゴーンは海外逃亡、完成車検査不正が発覚、さらにはゴーン逮捕の立役者の西川社長&CEOの不正報酬取得が表面化し辞任。ゴーンの不正報酬を訴えた本人が不正報酬ですから、あきれます。退任した西川社長には4億円超の退職金が支払われています。再建の星と目された副社長は突然辞任し、日本電産の永守会長のもとに入りました。日産に見切りをつけた形です。こういった抗争に明け暮れる間に、体力をどんどん落とし、いまでは、どうしたら生き残れるかという状態です。おそらく、1999年にルノーに救済を求めた時以上の窮地に陥る可能性があります。残された社員が浮かばれません。

MARKET

	(7月末)	(6月末比)
日経平均	21,710.00円	-578.14円 (-2.60%)
NYダウ	26,428.32ドル	+615.44ドル (+2.38%)
米ドル	105.95円	-2.05円 (-1.90%)

今月の言葉

他人に会った時自分が収穫せず、相手に収穫させる技術において、アイゼンハワーは稀有の人物だった。だからこそ、彼に会った人の多くは、熱烈なアイク信者になったのである。

-リチャード・ニクソン『指導者とは』

今の時期、歩くことが大事！

コロナウィルスの感染が日本で広がり始めて、はや半年、まだまだ広がりを見せています。世界でも感染拡大は止まりません。これから少なくとも1年は、自由な行動がままならない状況は覚悟しておいたほうがいいでしょう。

こう事態が長引いてくると、テレワークも一般的になり、自宅にすることが多くなります。子供はゲームやテレビにかじりつき、四六時中、家族が一緒にいることでストレスになり、イライラしたり、鬱々とした気分になりがちです。1日何をやったのか、何もしないで終わったような徒労感を感じてしまいがちです。こういう事態が、日本で静かに進んでいるのではないのでしょうか。コロナウィルスが長期戦になれば、見落としてはいけないのが、心身の健康維持です。これに取り組むのは、感染防止と同じように大事なことです。

またコロナウィルスの大きな問題は、感染の危険とともに「運動不足」になること。60代以上の人にとっては、体力の低下、足腰の弱化、ボケの進行、持病の悪化につながります。また若い人にとっては、肥満、抑うつ症状、成人病の増加につながります。この「運動不足」に対処するもっとも有効な対処法をお知らせしましょう。それは「歩くこと」です。普段は当たり前のこととして歩いていますが、現在は「歩くこと」が大変大事なこととなっているのです。

二足歩行が身体と脳をより有効に機能させるという学説があります。米国の研究によれば、歩くことは抑うつ気分を抑える効果があるというのです。

歩くことによって、減ってくる筋肉や脳のたんぱく質分子を作り、そのたんぱく質分子は、新陳代謝機能や細胞増加を促進するための肥料になるというのです。また炎症抑制効果もあるとのこと。この大事なたんぱく質分子は、身体の動き(歩くこと)による脳や体の活動増加から作られます。あまり動かないと、これらの分子が本来の役割を果たせるほど、十分に作られないのです。

また最近の研究によれば、歩くことは「気づき」にもつながるといいます。その歩き方は「うろつき」。哲学者や芸術家が沈思黙考して歩くようなものです。歩き回ることが、座ったままでいるより、新たな発見につながりやすいというのです。歩くことが創造性を高める。なにか創造性を要するような仕事を始める時、いくつか質問を書き留め、ボイスレコーダーやメモを持ったりして、20分散歩に行く。デスクの前に座っているより、ずっと創造性あるアイデアが生まれるそうです。歩いているときの頭は、より活性化していて、ひらめきの発想、いわゆる“a-ha”体験を生みやすいというのです！

3, 4日歩かないでいると、足の筋肉が落ちてきて、脂肪に代わっていきます。高齢になれば、それは立ち上がるにも、人の手が必要になることを意味します。そうならないためにも、今の時期、歩くことが大事なのです。長生きをしながら、気持ち的にも肉体的にも生き活きと、人生を歩んでいくために！

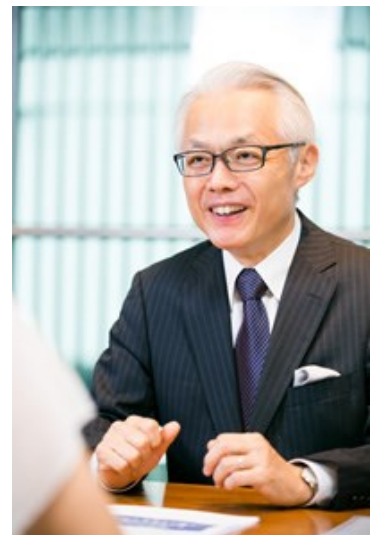
まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に提供してはならず、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072
電子メール：info@bfsc.jp